

保谷駅前公民館

第13回

# 駅前フェスタ2022

10月22日(土)・23日(日)  
10時～16時30分

～つなく、広がる、笑顔の和～

※一部の展示は10月22日(土)から10月28日(金)  
【主催】駅前フェスタ2022実行委員会、保谷駅前公民館



公民館利用サークルの日頃の活動の発表・展示・体験を開催すると同時に、地域の方々との交流の場です。どうぞ来場者の方々も一緒にお楽しみください。お待ちしております。

発表(集会室) 12時30分開場

展示(第2学習室)

ワークショップ(第1学習室)

- 22日(土)
  - 12:30 オープニング ホアロハ
  - 13:00 開会
  - 13:05 西東京フルートアンサンブル
  - 13:40 ラ・ティーアギターサークル
  - 14:00 ホアロハ(フラダンス)
  - 14:15 ～休憩～
  - 14:35 あつまれ! みんなのけいおん講座受講者
  - 15:00 ザ・ボンチャーズ(ロック)
  - 15:35 ロック研究会
  - 16:00 交流演奏

- 22日(土)、23日(日)
  - 高橋家屋敷林保存会
  - ラマーミツルの会(スリランカの文化紹介)
  - 手話サークル山茶花の会
  - 手の会(手芸)

- 22日(土)14時～16時
  - フェルトでハート♡を作ろう(手の会)
  - 1回30分 入替制 小学生以上
  - 各回定員10人 要事前申込(申込順)
  - ※10月3日(月)10時から電話で保谷駅前公民館(☎042-421-1125)へ

- 23日(日)
  - 13:00 開会
  - 13:05 コールJOY(男声合唱)
  - 13:30 放たれ小僧(演劇)
  - 13:55 奄奏会(民謡)
  - 14:20 がらくた座(アカペラ)
  - 14:55 練馬大根一味(演劇)
  - 15:25 リコレファ、レファ(フラダンス)
  - 16:10 交流コーナー

展示(廊下・壁面)

- 22日(土)10時～28日(金)12時
  - 絵手紙花囃会
  - オレンジカフェ保谷駅前(地域包括支援センター)
  - 活写恋(写真)
  - こども食堂げんき
  - たちばな会(生け花、22日～24日)
  - 西東京市山岳連盟土曜山行会
  - 布あそび(つまみ細工)
  - 保谷七宝同好会
  - 1 ROOM CAFE いろえんぴつ

落語寄席(第1学習室)

- 23日(日)13時～15時30分  
保谷落語愛好会

市民活動相談(廊下)

- 22日(土)13時～16時  
23日(日)10時～16時  
西東京市市民協働推進センター ゆめこらぼ

似顔絵(廊下)

- 22日(土)10時～12時  
23日(日)10時～12時・14時～16時  
保谷クロッキー会グループAD

ぬり絵セラピーとカードづくり(第3学習室)

- 23日(日)11時～15時  
1 ROOM CAFE いろえんぴつ

協力:大正琴クローバー、バロック、翠正会書道グループ



ひばりが丘団地メモリアルの旧74号棟跡



▼「田無町駅」から「ひばりヶ丘駅」へ  
西武池袋線の前身である武蔵野鉄道が開通した9年後(大正13年)、現在のひばりヶ丘駅は「田無町駅」の名称で開業しました。

保谷村にあるのになぜ「田無町駅」なのでしょう。当時西武新宿線は未開通で、現在の田無駅はありません。旧田無町の北端からわずかに外れた保谷村のこの駅が、田無開業まで田無町への玄関口だったのです。

昭和2年、西武村山線(現在の新宿線)「田無駅」が誕生します。「田無町駅」の名称は、昭和34年に「ひばりヶ丘駅」に改称されるまでの32年間使われ、北には田無町駅、南には「田無駅」と「田無」の名がついた駅が二つあった時代がありました。

▼新しい生活様式の先駆けとなったひばりが丘団地  
駅名を改称した理由は、駅の南西部に「ひばりヶ丘団地」ができたからです(昭和34年)。戦後

の復興により人口が都市に集中し、生活水準が向上した結果、住宅需要が急激に増大しました。旧中島航空金属田無製造所の跡地に建設された、当時としては最も近代的なマンモス団地であり、のちに各地で建設される公団住宅の手本となりました。鉄筋コンクリートの耐火構造、2DKという「食寝分離」の部屋、今でこそ当たり前のステンレスの流し台のあるダイニングキッチンや浴室の整備など、居住する人の意識、生活様式にも大きな変革をもたらしました。昭和35年の皇太子・皇太子妃(現在の上皇・上皇后)をはじめとして、多数の要人が視察に訪れました。その後、多くの部分は集合賃貸住宅棟「ひばりが丘パークヒルズ」などへと建て替わりましたが、皇太子・皇太子妃が訪れた建物などの一部は「旧74号棟跡」として現在も保存されています。

▼西東京市の北の玄関へ  
ひばりヶ丘駅は、ひばりが丘団地の人々の通勤の駅として、また昭和9年に豊島区から移転してきた自由学園の通学の駅として発展しました。北口も、再開発によって急な階段がなくなり、ロータリーが整備されて、北にも南にも行けるバス路線の玄関口となっています。南北合わせて計17路線が日々運航しています。

▼駅近くに白子川の源流が  
駅東側の大通り、保谷志木線の踏切を北に渡ると右側に階段があり、コンクリートの板にふ

さがれた暗渠に降りることができ、この下には昔、白子川の源流(湧き水)の一つが流れていました。暗渠をたどると、練馬区を流れる白子川に合流します。白子川の本流は練馬区の井頭公園を水源として流れますが、途中この湧き水を加えて、埼玉県の和光市を経て荒川に注ぎます。つまりこの暗渠は海に続く始まりです。長い道のりを経てたどり着く海へと思いをさせることができます。

▼旧中島航空金属田無製造所と「谷戸のトンネル」  
戦争が始まる前、中島飛行機

一荻製作所は、田無町の南谷戸(にエンジンの試運転工場を作りました。そのエンジン音がとても大きく「谷戸のトンネル」と言われていました。その後、隣りに同じく航空機エンジンを作る同中島航空金属田無製造所ができました。ここへは、後にひばりが丘団地となる土地を賣く東久留米構外線という線路を蒸気機関車が走り、原料などが運ばれました。現在その一部は「たての線道」といわれています。

また終戦間近には、旧武蔵野町にあった中島飛行機武蔵製作所から機関車が、西武柳沢駅西側、東大農場を通って、エンジンの試験品等を運んでいました。この線路は戦後すぐに撤去され「幻の鉄道」と呼ばれています。現在は西武柳沢-田無駅間にわずかな遺構を残すのみとなっています。

白子川の始まりとひばりヶ丘駅前



▼谷戸のトンネル  
一荻製作所は、田無町の南谷戸(にエンジンの試運転工場を作りました。そのエンジン音がとても大きく「谷戸のトンネル」と言われていました。その後、隣りに同じく航空機エンジンを作る同中島航空金属田無製造所ができました。ここへは、後にひばりが丘団地となる土地を賣く東久留米構外線という線路を蒸気機関車が走り、原料などが運ばれました。現在その一部は「たての線道」といわれています。

また終戦間近には、旧武蔵野町にあった中島飛行機武蔵製作所から機関車が、西武柳沢駅西側、東大農場を通って、エンジンの試験品等を運んでいました。この線路は戦後すぐに撤去され「幻の鉄道」と呼ばれています。現在は西武柳沢-田無駅間にわずかな遺構を残すのみとなっています。

今、谷戸小・谷戸第二小を中心に、4つの緑のある場所(せせらぎ公園・発想の森・西東京いこいの森公園・東大農場)が広がっています。

